

平成24年度 第3回 別府市立図書館協議会 会議録(要約)

【日時】 平成24年3月18日(月) 午前10時~午前11時30分

【場所】 別府市役所4F - 3会議室

【出席者】

<図書館協会委員> 土岐 修委員長、佐藤 慶子副委員長

大林 みどり委員、高橋 伸子委員、

石井 保廣委員、石川 順一委員

<事務局> 本田生涯学習課長、岩本図書館長、小松副館長、谷中主査補、宮原主任

【欠席者】 立川 敬子委員、秋月 順一委員

○開会あいさつ等(事務局の出席委員確認後開会)

(会長あいさつ:土岐会長)

第3回図書館協議会の御参会ありがとうございます。昨年8月の図書館改修基本計画の素案が出来まして、計画策定の前に、委員の皆様のご意見を聞きながら、使いやすい図書館の改修が出来ればと思います。

私、新しい図書館を作りたいという、揺るぎない気持ちを持っています。協議会にて色々なご意見が出ますが、具体的に実現できていない状況に苦慮しております。市の財政状況を見る限り、先行きは不明瞭ですし、市の計画も見えてきません。

そういった中で、市民に親しみやすい図書館の改修基本計画を考えていくことが、協議会の役割だと思います。教育庁の考えもありますし、生涯学習課だけの計画で話が進むことでもありませんので、そういうことを念頭に、皆様の意見を伺い、図書館運営を考えていきたいと思っています。短い時間ですが、忌憚のないご意見をお願いします。

【教育長 欠席のご報告】

(土岐会長)

お手元に資料がございます。会議次第により会議を行います。

P2をご覧ください。報告第1号「平成24年度別府市立図書館改修基本計画策定について」です。本田生涯学習課長から、図書館改修基本計画策定について報告をお願いします。

(本田生涯学習課長：以下、本田課長)

別府市立図書館の改修基本計画のご報告を申し上げます。この計画について、南部振興開発ビルの一階のスペースの一部活用、二階（図書館）のレイアウトの見直し変更等を中心に事業費を含めた概算を策定致しております。

委員の皆様には、先ほど土岐会長からお話がありましたが、昨年8月に開催された第2回図書館協議会において、素案をお示し致しました。児童コーナーを一般書架から離さない方がよいという意見、あくまで新図書館の建設が前提で、改修については最小限に留めておくべきという意見などを参考とさせて頂きました。

別府市の総合計画は、10年間の計画です。この計画の中で、生涯学習の充実のための、拠点として、新しい図書館建設を検討することとなっております。この新しい図書館について、この計画の時間軸の中では、長期的な課題として位置づけています。

また、同時に現行の図書館において、利用者のニーズを踏まえた多様なサービスの提供を行い、生涯学習の中核施設として、機能させるといったことに取り組んでいかないとはいけません。

今回の図書館改修基本計画につきましては、現行図書館での改修を前提としたものであります。現行の図書館をとりまく短期的、中期的な課題を解決するための、たたき台としての位置づけにて、策定をするものでございます。

したがって、この計画が出来たといつて、この計画をもとに改修工事を実施するものではございません。今回策定した改修基本計画の内容につきましては、教育庁の中で精査出来ていませんので、現段階での公表については差し控えさせていただきますが、今後、教育庁の中で精査を重ねまして、市立図書館の在り方、方向性等について決定をし、予算担当部局と協議出来る状況になったら、改めて図書館協議会においてご報告させて頂きたいと考えていますので、よろしく申し上げます。

(土岐会長)

只今、本田課長より、図書館改修基本計画について説明がありました。委員の皆様は、おわかりだと思いますが、計画案が出来ても、市政のトップである程度決まっていかないと、いくら話をしていても実現は難しい状態です。

長期的な計画の中では、ここ2、3年で図書館がどうなるかという話はないと、私は受けとっています。

現実的に考えると、現行の図書館の充実と活用を考えていくのが中心になってくるでしょう。

そうしますと、過去の新しい図書館建設の経緯もありますので、しっかり別府市の方で、改修計画なり、新しい図書館の計画等の長期的な視点で、計画案、策定案なりについて、話をしていくことが効率的だと思います。

今、これがいい、あれがいいといっても、いつまでに実現するのかがはっきりしていない状況であれば、現行の図書館をどのようにやっていくのか、少し拡充したスペースがとれるのかどうなのか等を中心に考えた方がいいと思います。

いずれにしても、今ある図書館に何億もの費用をかけ改修しても、駐車場の問題等の解決はありません。財政状況もありますが、ここは市長、教育長等のトップの決断、判断を見守りたいと思います。詳しい中身については、その都度、話を深めていくようにしないと、計画にはっきりと期限等が明記されていない中で、意見を述べても意味がないような気がします。そういったことを含めて、委員の皆様にご意見をお聞きしたいと思います。

(佐藤副会長)

質問ですけども8月に、図書館改修基本計画にて図面が出来ていたと思います。その図面をもとに協議等がありましたが、もっと改修の内容を検討せずに、そのまま予算がついて実行されるのでしょうか？

(本田課長)

8月の第2回図書館協議会に、素案という形で皆様にお示した背景は、あくまで素案としてのたたき台として、皆様方のご意見をゾーニング等に反映したいということで、お示しました。その時の素案で、大きく2パターンの図面の提案がありました。ご意見を頂く中で建物をみると、バリアフリー等の視点より、一階に児童コーナーがあってもメリットはあるという意見がありました。ただし図書館全体でみると、やはり児童コーナーと一般書架を分離すべきではないという意見もありました。そういう意見を受けまして、今の所、基本的に児童コーナーと一般書架を分離するということは考えていません。前回の協議会での図面がそのままといったことにはなりません。

(佐藤副会長)

以前、豊後高田市立図書館の視察に行つて参りました。その際、新しい図書館建設のため、豊後高田市は、色んな補助金の活用をしていました。別府市では厳しい財政状況の中、新しい図書館建設の際、どのように考えていますか？

(本田課長)

豊後高田市立図書館のオープンは、今年の2月だったと思います。そういった補助金の話は、私も伺っております。豊後高田市と別府市を比べると、地理的条件、社会的条件というのは違います。豊後高田市は、人口減少を伴う若者定住の対策を行っている地域であ

り、その問題を解消するための国の政策等がありますので、活用できる分を色んな所から補助金を活用し、財源を確保してきたと思います。

もちろん我々別府市でも、最終的に新しい図書館建設となれば、事業費ベースがどのくらいになり、財源をどこに求めるのか等の話になってくると思います。当然、使える国、県の助勢等がありましたら、最大限活用して財源に充てるということは、基本的な考え方だと思っているので、補助金活用については、我々の方でも、どういった助成の制度があるかを充分検討して参りたいと考えています。

(土岐会長)

予算の獲得についての話でした。予算、費用がある程度、裏打ちされないと、具体的な動きが取りにくいです。新しい図書館を作ることは、市民から反対されないという気持ちを我々は持っています。そのあたりを含め、新しい図書館をつくる予算獲得のため、基金等の工夫をして欲しいと思います。

(本田課長)

文部科学省から社会教育施設（図書館）への、単体での補助金というのは難しいです。先程あげられた豊後高田市は、若者定住、過疎対策等の部分を活用していると思いますが、同じ補助金を別府市で活用するとなると、難しいと思います。基金の創設等についても、我々だけでここで申し上げることはできませんが、そういうことを含めて、財源の対策をどういう方向でやっていくのが、現実的なのかを、教育庁の中だけでなく、政策部局などと協議出来ればと考えています。

また、現行の図書館の活用・充実というのが、喫緊の課題となっています。そうは申しても、最終的に新しい図書館建設というのが、ゴールと考えています。しかし、市の財政状況もありまし、他の政策等の優先順位等もありますので、そのあたりは教育庁だけでの話では出来ない部分もありますので、充分、政策部局等と協議をする中で、よりよい方法で図書館の話を進めていくことが出来たらと考えています。協議会には、動きがあれば逐次お伝えしていきたいと思います。

(石井委員)

補助金等の活用は大事な話で、文部科学省だけでなく、調べればもっとあると思います。それ以外に、民間会社の活用方法もあると思います。そのあたりを含めて、財政状況が厳しいですから、選択肢を広げていただければと思います。別府市にとっていい図書館が出来れば、話題にもなるので、是非ご検討していただきたいと思います。

(佐藤副会長)

話が変わりますが、他市町村の図書館に基本計画というものがありますが、別府市立図書館にそういった基本計画はありますか。

(岩本館長)

図書館の基本計画というのが、図書館のソフト面の計画なのか、全体を捉えての計画なのかがあると思います。以前、新しい図書館の計画があった際、その方向に進むのか、改修するののかの話がありました。

しかし、今回は改修するのではなくて、改修できるのかどうかを財政当局と話し合うための基本計画策定案でして、それをもって策定いたします。

もしこれが、財政当局で改修するとなったら、図書館としてのスペース等の規模が変わってきますので、基本計画を見直しましょうとなります。もし否決され、現状のままでやるなら、その規模での図書館計画となります。以上のことを踏まえて、改修について市の方向性が見出せない限り、難しいのではないかと思います。

(佐藤副会長)

ソフト面を含め、別府市立図書館の考え方を、明確にして欲しいと思います。

(岩本館長)

改修にて、図書館の環境が変わってくると思うので、改修計画の結果が出るまで、見合わせたいと思います。

(石井委員)

そういった計画というのは、理念に相当するものだと思います。はこもの、施設とか関係なく、どういった市民サービスをやるのかが大事な話です。なので、環境によって、理念が変わってもいいと思います。この時点では、何が理念なのかということ踏まえた上で、計画していかないといけないと思います。

例えば、子どもの読書活動推進計画を各市町村で設定するように、法律で決まっています。別府市では、2005年7月に作成されていますが、それ以降新しい計画は、見れません。そういったこともありますので、市民と連携しながら、使いやすい図書館にしていくことが大事だと思います。

(土岐会長)

この後、運営状況の説明があると思いますが、その活動等をまとめていけば、基本計画の関係ができていくのではないかと思います。他の図書館等の基本計画などを参考にして、まとめてみるのもいいと思います。できるだけ、早く基本計画が、出せるようにしてもらいたいです。

他に意見等は、ございませんか。なければ、次に「議第1号平成24年度図書館運営状況について」はிரりたいと思います。事務局の説明をお願いします。

(岩本館長)

資料(平成24年度 第3回 別府市立図書館協議会)にて報告(P3以降参照)

(土岐会長)

事務局の説明で、平成24年度から、祝日開館を始め、近隣市町村住民への貸出対象の拡大、マスコットキャラクターの導入、夏休み子どもスタンプラリー、大人のための図書館教室など運営上努力させていることが報告されましたが、今年度も今月半月を残すこととなっておりますが、今年度を振り返って運営状況について、ご質問、ご意見はございませんか？

(石井委員)

活動については、良くなっていると思います。高齢者向けの催しがあれば、もっといいと思います。

また、統計についてですが、同規模の市町村の図書館と比較出来るようにして頂きたいと思います。理由は、そこに差があれば、どのように対応していくのかの話ができるからです。

(岩本館長)

高齢者向けの催しについては、今年の2月に大人の図書館見学を行いました。そういった行事を含め、取り組んでいきたいと思います。

統計については、平成24年度の集計が出ましたら、皆様方にお示ししたいと思います。

(石川委員)

事務局から、社会見学の受け入れの活動報告がありました。私どもの学校が、市立図書館の近隣ありまして、児童達に対し、社会見学を受け入れて頂きまして、大変お世話になりました。

是非、そういう形で子どもたちに読書・本が、身近なものであるということを認識できるように、今後ともお力添えいただきたいと思っています。

また、別府といえば、留学生が多いので、色んな取り組みがあればと思います。図書館活動かはわかりませんが、別府の留学生との交流を通して、別府の子どもたちに世界を知って日本の知ってほしいと思います。これは、図書館活動をこえて、市全体で取り組むべき活動だと思います。

(土岐会長)

留学生の活用については、文化国際課をとおして交流が出来るようになってきていると思います。図書館でも本をとおして、そうした活動に取り組んで頂きたいと思います。

(土岐会長)

最近の図書館の評判が良くなったとよく耳にします。そういったことを踏まえて、これからも図書館運営に力を入れて頂きたいと思います。

(石井委員)

留学生関係ですが、別府の留学生は、宝だと思います。一層の活性化をお願いしたいと思います。また、事務局の活動報告でありました特設コーナーは素晴らしい活動なので、是非推進して頂きたいと思います。

(土岐会長)

ほかにご意見はありませんか。なければ、議第2号平成25年度図書館運営について事務局より説明をお願いします。

(岩本館長)

資料(平成24年度 第3回 別府市立図書館協議会)にて報告(P20以降参照)

基本的な考え方は、全て平成24年度と同じでございます。大きく変わった所、取り組んでいきたいことをご説明いたします。

先程、委員のご意見がありました国際交流について、市役所には、文化国際課があります。その課の協力をうけて、来年度も交流をしていきたいと考えています。

次に、貸出文庫の対象を児童館、保育園等の施設だけでなく、高齢者施設へのサービスの展開を考えています。また読み聞かせもボランティアだけでなく、積極的に司書が取り組んでいきたいと考えています。

また図書館愛好者を増やすため、前年度から、ブックポスト、新聞雑誌の購入増、移動図書館の時間帯の変更等があります。

平成25年度で、力を入れたいことは、関係部署との連携でございます。子ども読書活動の推進を図るため、重点事業として学校連携の取り組みです。この点について、小松副館長よりご説明があります。

(小松副館長)

子どもたちにとって、読書の大切さというのは、委員の皆様充分ご理解いただきまして、感謝しております。現在、別府市立図書館には18万を超える蔵書があります。その中で、児童書、絵本、大型絵本、紙芝居、ヤング関係は4万近くあります。是非、別府市の子ど

もたちに市立図書館を活用してもらい、読書活動を広げていきたいと思ひます。

今年度は、全体のテーマとして図書館を楽しもうということ、色んな行事を取り組んできました。来年度は、図書館を活用しようというテーマで、活動を取り組んでいきたいと思ひています。

平成24年度は、市立図書館の司書と学校司書との交流、お互いの施設見学等を行いました。それぞれの活動や取組みについても情報交換をし、その影響として、団体貸出の増加もありました。

しかし、それぞれの現場の事情、活動内容の連絡不足等があり、充分な連携までは、至っておりません。来年度は、子どもたちのために、お互いのためになるような学校連携を取り組んでいきたいと思ひています。資料のP22をご覧ください。

資料（平成24年度 第3回 別府市立図書館協議会）にて報告（P22以降参照）

○取組のテーマ 『みんなで図書館を活用しよう！』

- ・「市立図書館の蔵書を活用しよう」について
- ・「図書館をもっとしろ」について
- ・「子どもたちのために図書館の活用を考えよう」について
- ・「いつでもどこでも活用することができるために」について

（岩本館長）

皆さまにご報告した図書館活動、サービスについては、限られた職員の中でやっています。職員の負担が増え図書館のサービスが低下しないように取り組んでいきたいと考えています。出来れば、学校図書館の司書の協力をお願いしたいと思ひます。図書館の方から教育庁に依頼し、学校司書がもう少し自由に動けるようになればいいなと考えていますが、図書館だけの考えでは難しい所もありますので、皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思ひます。

（土岐会長）

事務局の説明は終わりました。限られた施設、職員のサービスとなりますが、新年度は特に学校連携を深め、児童生徒に対する読書活動の推進を図るようであります。子どもたちに対する読書の大切さは充分、私も感じており、新年度の取り組みを進めていただきたいと思ひます。昨年より比較的市民ニーズに沿った運営に取り組んでおられると思ひますが、委員皆様のご意見をお願いいたします。

（大林委員）

今の市立図書館の評判が良くなっていることは、私もよく聞きます。予算、人の問題がありますが、別府の良さが外に伝わるように、もっと図書館として、温泉、竹工芸等郷土資料を特化して収集し、公開、展示等をして欲しいと思ひます。ある北海道の市立図書館

では、馬についての図書の収集をしており、研究をするなら、その図書館をというように、別府の産業・観光等の活動について、資料の面からバックアップして欲しいと思います。

予算が少ない中で、一生懸命取り組んでいると思いますが、別府で働いている方へのビジネス支援が、感じられません。そういった点に力を入れれば、別府の産業・観光に資することになり、別府市立図書館の認知度・必要性の増進、予算獲得にも繋がるのではないかと思います。図書館は、子どもに本を読ませるだけの所ではなく、観光客を含め、働いている一般の方も活用できる場所としても位置づけて欲しいと思います。

(岩本館長)

貴重なご意見ありがとうございました。今の図書館では、温泉コーナー、郷土コーナーがございますが、ただ書架があるだけで、調査・研究したい方に対してのバックアップ体制が充分出来ているのかというと、正直ございません。

これからの別府市市立図書館というのは、本だけでなく、調べものがあった際は、温泉・観光といった所をバックアップが充分できる体制を作ればと考えています。徐々にではありますが、司書達と考えながら取り組んで参りたいと思います。

(石井委員)

はこものがなくとも、地域性を活かした情報提供は非常に大事なことなので、是非取り組んでください。また、現在所蔵のコレクションの郷土資料についても、もう少し外に出してほしいと思います。

(土岐会長)

郷土資料の充実については、何年の前からあげてきております。別府市の歴史・ルーツについては、別府史談会が、かなり古い資料を扱っていると思います。竹工業については、竹細工伝統産業会館などがあります。別府図書館になくとも、そういった、団体、組織との連携が図れるようになればと思います。

(岩本館長)

来年度の大河ドラマの件もありますし、史談会、大学図書館等との連携にて、より市民、観光客が喜ぶような図書館づくりが出来ればと思っておりますので、ご協力お願いします。

(佐藤副会長)

別府の街づくりの拠点として、図書館を考え、資料の収集をして欲しいと思います。もっと違う趣向や、多面的な考えで取り組んで頂きたいです。以前の図書館を考えると、職員の努力を感じます。これからもどうぞよろしくお願いします。

(石井委員)

これからの学校連携については、充実した連携をお願いしたいと思いますが、調べ学習について、何か発表の場はありますか。

(小松副館長)

調べ学習の件ですが、現在発表の場はございません。昨年度、数件温泉に関する調べ学習の問い合わせがありまして、団体貸出にて対応しました。郷土関係の図書は、禁帯出があり、館内閲覧というケースもありましたが、平成25年度は、そういう所を含めて、広げていきたいと思っています。

(石井委員)

学校連携で資料提供した図書を活用し、調べた結果を発表する場があったら、もっと子どもたちは、調べることに興味を湧くと思いますので、更なる学校連携をとるようお願いいたします。

(石川委員)

学校側として意見を申したいのですが、読書は、学力向上だけではなく、落ち着いた学びの場が出来るということで、大切なことだと痛感しています。その中で、読書活動の推進と学校連携の取り組みを重点項目として取り組んでいることを、うれしく思います。団体貸出等も広げていただくということで、このことは、ある意味仕組みの改革でありまして、市の予算やその配分は市の方で決まっています。生涯学習課の予算で、所蔵する図書館の本を、学校教育課の各学校が有効に活用していくことは、一つの改革だと思いますので、是非進めていただきたいと思います。

(小松副館長)

学校司書との連携について、今年度は学校司書との情報交換について、昨年度以上に取り組んできたつもりですが、先程説明したように、それぞれの学校の、公用車取得、勤務時間等の制約等があり、充実した学校連携は難しい所です。学校司書は、子どもたちに本を提供したい意欲があります。また、学校図書館の図書購入費は少ない状態の中で、市立図書館を活用できることもありますので、ぜひ校長会での周知の程よろしく申し上げます。

(土岐会長)

色々な話がありました。学校連携について、事務局の方で動いてもらおうと話が進むと思います。図書館と、学校側が歩み寄って欲しいと思います。現在、学校では、図書の見受けられず、国語の授業の一環となっているようです。学校図書館の活用として、いかに関心を持ってもらうことが大事だと思います。

(石井委員)

はこものがなくても、バーチャルな部分が広がっていると思います。学校図書館の書物の流通、人的な情報交換も含めたものとして、図書館人として、うれしく思っています。

(土岐会長)

他に何かありますか。なければ、これで本日の図書館協議会を終わりたいと思います。生涯学習課だけの話では進まないの、市長・教育長などの決断で決まらなと、物事がうまく進まないという思いをここ数年で感じます。

本日は、主に運営に関することを中心に話し合いをしましたが、出来るだけ早く改修の方向性が決まり、どういった図書館をつくっていくのかという話ができるように、希望しましてこの会議を終わります。